



TITLE:

1花柄に8個の果実を結実したアケビ

AUTHOR(S):

川野, 進; 久保田, 信; 梅本, 信也

CITATION:

川野, 進 ...[et al]. 1花柄に8個の果実を結実したアケビ. くろしお 2009, 28: 32-32

ISSUE DATE:

2009

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188223>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

1花柄に8個の果実を結実したアケビ

Akebia quinata set eight fruits in one pedicel

川野 進*・久保田 信**・梅本信也***

アケビ *Akebia quinata* (THUNB.) Decaisne はアケビ科の落葉性のつる性木本で本州、四国、九州に分布する。葉は掌状複葉で小葉は5枚、全縁である。本種は雌雄同株かつ雌雄異花で、春に花序を総状または散房状で下垂させ、花梗 peduncle 端に数個の雄花を、根元の方に1または2個の雌花を発達させる。雌花の柱頭は粘液を分泌、ハエ類などの訪花昆虫による受粉を促進していると思われるが、受粉生態の詳細は不明である。雄花は長さ1 - 2cmの花柄 pedicel を、雌花は長さ4 - 5cmの花柄をつける。一般的には9~10月頃に淡紫色に色づき熟した集合袋果 etaerio of follicles (以後、果実) を1 - 2個ほど結実させ食用に供される一方、鳥類や哺乳類によって袋果 follicle (以後、種子) と共に食されて動物散布されることもある。

和歌山県新宮市高田の川野邸の庭先でアケビ自然実生が少なくとも5年間は生長し、2009年になって1花柄に8個もの成熟果実を結実した(図1)。この間、長さ10mほどのポール1本を地上から1.6mほどの高さに水平に渡しただけであり、肥料散布や薬剤散布などの特別な園芸的処置はいっさい実施していない。2008年までは1個、時に2個の果実を1花柄に形成したが、8個の結実とは2009年が初めてである。現状では原因は特定できないが、(1) 雌花が分化する時に暖冬やその他の原因で過剰な細胞分裂となり、2回分余計の雌花分化となった、(2) 同属の三つ葉アケビとの雑種起原の自然実生が遺伝子不平衡状態となり、発育不安定性となり、今回の結果をもたらした、(3) アケビには多

種多様な品種群があり、通常の果実数の2 - 3倍かそれ以上の果実を1花柄につける品種も改良されているので、その系統の自然実生が正常



図1 和歌山県新宮市で1花柄に8個の果実を結実したアケビ

な生殖生長を示し始めた、(4) その他、といった理由が考えられる。引き続き観察を続けるとともに、種子を確保して発芽させ、その生長を観察したい。

* (〒647-1101 新宮市高田580)

** 京都大学フィールド科学教育研究センター
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

*** 京都大学フィールド科学教育研究センター
(〒649-3632 東牟婁郡串本町須江1330-1)